

【3月26日開催 京都大学生存圏シンポジウム/ JBA・JABEX 政策情報セミナー】

持続可能な社会を目指す SDGs・パリ協定・バイオエコノミー

エネルギーを起点として世界経済が大きく変わろうとしています。2009年にOECDがバイオエコノミーに関する将来予想を発表した背景には、化石燃料エネルギー依存に起因する地球規模での気候変動への懸念があり、その後、パリ協定として、その問題意識が世界的に共有されています。国連も持続可能社会の実現に向けた目標(SDGs)を策定しています。先進各国は、このような状況に敏感に反応していますが、日本は東日本大震災の影響もありますが、残念ながら動きが遅くなっています。

本シンポジウムでは、これらの状況を俯瞰的にみて、将来の日本経済のあり方について議論を深めたいと思います。多くの皆様のご参加を、よろしくお願い致します。

開催日時: 2018年3月26日(月)13:30-16:35

開催場所: 京都大学東京オフィス(新丸の内ビルディング10F)

アクセス: <http://www.kyoto-u.ac.jp/ja/tokyo-office/about/access.html>

主催: 京都大学生存圏研究所、(一財)バイオインダストリー協会(JBA)、
日本バイオ産業人会議(JABEX)

協賛: (公財)かずさDNA研究所

定員・参加費: 定員60名、一般参加無料

お申込みはこちら(JBAホームページより): <https://jba.or.jp/jba/seminar/>

プログラム:

□ はじめに 13:30-13:35

柴田 大輔 氏 ((公財)かずさDNA研究所 研究部長、京都大学エネルギー理工学研究所特任教授)

■ 講演 13:35-16:30 (講演時間は質疑応答時間含む)

13:35-14:10 「バイオエコノミーの世界潮流:欧州を例に」

五十嵐 圭日子 氏(東京大学院農学生命科学研究科 准教授)

14:10-14:40 「バイオ産業/バイオエコノミーに関する国内外の技術・政策動向」

坂元 雄二 氏(JBA企画部担当部長、JABEX事務局次長)

14:40-15:15 「低炭素社会でのバイオマス生産 -インドネシアを例として-

梅澤 俊明 氏(京都大学生存圏研究所 教授)

-休憩-

15:25-16:00 「持続可能な国内農林業-「エネルギー・スマート」な農林業と内発的発展の視点から-

河原林 孝由基 氏(榊農林中金総合研究所 主席研究員)

16:00-16:30 「グリーンエネルギーファーム:農業と再生エネルギー生産の両立」

柴田 大輔 氏 ((公財)かずさDNA研究所 研究部長、
京都大学エネルギー理工学研究所特任教授)

□ 閉会 16:30-16:35

以上